

II 履修について

1. 単位修得方法

(1) 卒業単位数及び卒業要件

科目群		単位数	備考		
①基礎教育科目	基礎演習	2	8		
	文章表現	2			
	経済学 A	2			
	経済学 B	2			
②外国語科目	既習外国語	必修	8	英語	必修
		選択	フリーゾーン（任意選択科目）		
	初習外国語	必修	8	1か国語を選択	必修
		選択	フリーゾーン（任意選択科目）		
③総合教育科目	文化と芸術	4	24	総合教育科目の3分野から4単位以上を含め、総合教育科目と総合学際演習から合計24単位以上。留学生は「日本事情 A~F」の8単位を含めることができる	
	地域と社会	4			
	人間と自然	4			
④総合学際演習	総合学際演習				
⑤保健体育科目		2		体育・スポーツ実習 A・B は必修科目	
⑥基本科目		16			
⑦基幹科目	自コース科目	28	48	自コースの「外国専門書講読（半期2単位）」4単位を含め28単位以上と他コース科目及び商学専門演習を合わせ48単位以上	
	他コース科目				
⑧商学専門演習	商学専門演習				
⑨フリーゾーン（任意選択科目）20単位					
応用展開科目					
その他					
資格課程関係科目（対象者のみ。8単位まで）					
他学部履修科目					
学部間共通外国語科目 グローバル人材育成プログラム（計4単位まで）					
合計				134	

※134単位を超えて修得した科目の科目名、単位、評価も成績通知表、成績証明書には表示されず。

1) 商学部を卒業するためには、次の要件を満たし、 <u>合計134単位以上</u> を修得しなければならない。	
① 基礎教育科目	8 単位
② 外国語科目〈必修〉（既習外国語・初習外国語）	16 単位以上
③ 総合教育科目	合わせて 24 単位以上
④ 総合学際演習	
⑤ 保健体育科目	2 単位以上
⑥ 基本科目	16 単位以上
⑦ 基幹科目	合わせて 48 単位以上
⑧ 商学専門演習	
⑨ フリーゾーン	20 単位以上
合計	134 単位以上

2) 卒業要件を満たす上での注意事項

- ア. ⑦基幹科目については、48単位のうち28単位以上は、自らが選択したコースの指定した科目（P.23～26）でなければならない。
- イ. ⑨フリーゾーン単位（任意選択科目）として卒業要件に算入できる単位は、②～⑧の要件単位を超えて修得した単位と応用展開科目、その他、資格課程関係科目、他学部履修科目、学部間共通外国語科目及びグローバル人材育成プログラムの修得単位とする。なお、資格課程関係科目で卒業に必要な単位数に含めることができるのは8単位まで、学部間共通外国語科目及びグローバル人材育成プログラムで卒業に必要な単位に含めることができるのは合わせて4単位までとする。
- ウ. **4年次には、最低12単位を修得しなければならない。**この場合は、新規履修・再履修の区別なく卒業要件科目のうちから修得すること。

3) 在学年数は4年以上なければならない。（休学期間は在学年数に含めない）。

4) 上記1), 2), 3) の要件が満たされない場合は、たとえ134単位を修得しても卒業することができない。

上記の卒業要件を満たした者には、学位記を授与する。

(2) 履修制限単位

各年次の履修単位数が不均衡になるのは学習上望ましいことではなく、単位制の下では一定の事前学習や事後学習が求められることから、各年次で履修できる単位数には次のように制限が設けられている。

履修制限単位数

学 年	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次		卒業（最低～最高単位数）
学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	
履修制限単位数	23	23	24	24	24	24	24	24	

※再履修科目の単位もこの履修制限単位数に含める

原則として履修制限単位数に含まれない科目

- ① 学部間共通外国語科目（必修外国語科目に振替履修を認められた科目等を除く）
- ② 資格課程関係科目（卒業に必要な単位数に含めることができる8単位までを除く）
- ③ 大学院商学研究科設置科目
- ④ 専門職大学院会計専門職研究科設置科目
- ⑤ 国際教育プログラム科目等
- ⑥ 学部及び大学の留学制度を利用して単位認定された科目

コラムQ&A

Q. 春学期に履修登録をする際に、履修制限単位数の上限まで登録したほうが良いのでしょうか。

A. 必ずしもその必要はありません。大学では1単位あたり、予復習の時間をかなり必要とします。各科目の勉強時間を確保するため、履修登録する科目は厳選しましょう。